

## ブログがもたらす情報発信と共有活動の進化 流行的話題を生み出す発信源になる

2003年から2004年は、日本でブログブームに火がついた年といわれている。大手ISPやポータルなどのネットビジネス事業者によってブログ関連サービスが相次いで公開され、ブログユーザー数は急増、著名人もブログに参加するなど、ブログは一躍インターネットの流行的話題となった。

### ■ネット上の情報活動の進化過程

ブログはBBS（電子掲示板）やML（メーリングリスト）に続く新しいコミュニケーションツールであると同時に、そのユーザーたちによって生み出される新しいネットカルチャーやコミュニティ現象に広げて語られることも多い。ここではブログブームを後追いつける形の解説ではなく、ブログを「個人ウェブページという場における情報発信・共有活動の進化過程」という大きな流れとして捉えてみたい。特に、ブログツールであれば現在標準的に装備されているトラックバックとRSS（ブログのメタデータ）と呼ばれる技術に着目してこの流れを解説しよう。

### ■トラックバックとモジュール化

まずトラックバックによって、ブログ相互間の水平的なリンクの生成が容易になったのと同時に、これがサイトの「モジュール化」とセットになっている点が重要だ。モジュール化とは、記事ごとや段落ごとでも独立した単位になるようにブログ全体をばらばらにしたうえで、記事ごとに固有のリンク（=permalink）のURLを発行することを指す。

たとえば、いままでの個人サイト間のリンクを支えていた文脈というのは、「同じ趣味を持つ人」「同じグループ・サークルに属している人」といった、そのサイトを管理する「人」に関するものが多かった。そのため個人サイト間でリンクをする際には、相手側にリンクし

てもよいかどうかをメールで事前に訊ねるといった面倒な慣習も珍しくなかった。それはサイトを管理する人間同士の友好のためには重要な儀式ではあったが、第三者からみたとき、そのようなサイト間の文脈だけではリンク先が果たして有益な情報を持っているかどうかからず、情報検索効率は低かったといえよう。

そこで、ある程度記事の内容まで踏み込んだうえでの相互リンクであれば（たとえば政治に興味がある「人」同士のリンクではなく政治家の年金未納問題についての「記事」同士のリンクであるほうが）、情報同士のつながりがより明確になり、新しい情報の追加や議論の継続がやりやすくなる。

### ■RSSを利用した情報収集活動

また、RSSと呼ばれるブログの「メタデータ」を収集・利用した各種サービスがある。たとえばping更新通知サイトや大規模ブログサービスによって、幾万にも散らばっているブログの最新更新状況が逐一把握できる。その名のとおり、「RSSリーダー」という、ウェブブラウザよりも素早く多数のブログを閲覧できるツールも数多く開発されている。さらに「bulkfeeds」<sup>(1)</sup>というブログ専用の検索エンジンでは、先述したブログの更新情報を利用して、数万のブログ記事を更新されたそばから検索できる機能に加え、フォローしたい話題の検索ワードをRSSリーダーに登録することで、その単語を含むブログ記事を常に自動的に収集することも可能となっている。現在bulkfeedsに登録されるRSSは1日1,000に近い数で増え続けているが、このようにRSSはネット上に分散しているブログを自在に集約し、その流通スピードの加速と柔軟な連携を可能にする。いまはブログそれ自体がネット上でのブームだといわれるが、今後

はブログが流行的話題を生み出す発信源になっていくだろう。

つまり、ブログはホームページ更新ツールというだけでなく、ネット上に自律分散したウェブページに存在する情報とそれを発信・解釈する人々を有機的につなぐことを可能にしているのである。

### ■日本独自の文化による発展も

次に、今後ブログがどのような進化を果たしていくのか考えてみよう。現在ブログは主に米国で開発されたものがそのまま使用されていることも多いが、日本独自の技術的進展と文化的特性とがあいまった形で発展していくと思われる。

具体的な事例としては、現在日本のブログサービスの中でも急成長を遂げ、シェアも非常に高い「はてなダイアリー」<sup>(2)</sup>がある。tDairyという日本のウェブ日記ツールをベースに、独特のトラックバックに似たリンクシステムを内蔵している点が興味深い。これは「キーワードリンク」と呼ばれ、自分が書いた文章の中にキーワード登録されている単語があるとき、それを基点として記事同士がリンクされていく仕組みである。このシステムは、ブログのトラックバックの自発的に「通知する」というスタイルが、もともと日記というプライベートな形でのウェブ上の個人情報活動を発展させてきた「ひきこもり性」な日本人には向かないのではないかという洞察に基づいて開発されたという。

また先述した「bulkfeeds」では、「similarity search」（類似性検索）という機能が提供されている。これはブログの記事内容を検索エンジン側で単語レベルに切り分けたうえで、その単語の使われ方の近いものを自動的にリンクプッシュするという仕組みであり、さらにこの機能をブログに埋め込むこともできる。これらのケースは、ブログの今後を占ううえで非常に優れたものといえよう。

### ■トレーサビリティと信頼の醸成

技術的な話が続いてきたが、当然いまのブログブームも一時的なものとして沈静化する可能性は十分にある（実際に、ほとんどのブログも結局三日坊主になっているという調査結果もある）。また、いくら数が増えても内容は一生活者のたわいのない日常を描く日記的なものや二次的な引用・言及が大半で、有益な情報発信がそもそも少ないという意見も根強い。さらにブログ同士の出会いが増えれば、もちろん異集団同士の意見衝突の機会もそれだけ増大するし、コメントやトラックバックのスパム広告などのノイズの増大も著しい、といった現状での問題点もある。

しかしここではポジティブな可能性として、ブログおける「出会い」の促進という側面だけではなく、より社会的な「信頼の醸成」という展開について示唆しておこう。ネット上の言説はまだまだ一般的には他メディアに比べて信頼性が低いとされるが、その状況をブログが変える可能性があるのではないか。

ブログの最も基本的な特性として重要なのは、先に述べたモジュール化の裏返しとして、個人が各自のブログという一貫した場所を確保しつつ情報発信をすることで、ネット上の言葉が個人に対し、よりトレーサブル（追跡可能）になり、責任の帰属が明確になる点で

ある。またブログに関する「評価情報（どのブログが読むに値するのかを判断するためのさまざまなパラメータ）」も、そのトレーサビリティにぶら下がる形で蓄積されていく。これは日本において巨大な匿名のコミュニティに発展した「2ちゃんねる」の論理とは大きく異なるものである。今後の日本社会において、2ちゃんねるとブログという対極的な両者の動向が、注目される。

ただしブログでの市民による草の根ジャーナリズム的な動きについては、その成否を問うのはまだ性急だろう。たとえば2003年の米国大統領予備選挙では、ハワード・ディーン候補者とその支持者がともにブログを通じてキャンペーンを行い、下馬評を大きく上回る党内最大の支持と、ネット募金を通じて多額の政治資金を得たことが話題になった。しかし最終的にはマスメディア側でのディーン候補への大々的なバッシングを受けて、急速に支持は凋落したという経緯がある。かように依然としてネットでの過熱的世論は醒めやすく、それがマスメディアを凌駕する影響力を持つことに私たちの社会はまだ慣れていない。

### ■情報公開のたやすさとプライバシー

さらにブログ上でのトレーサビリティの高い状態というのは、裏返せば常に監視にさらされる可能性のある状態と

もいえる。すでに携帯電話から写真を投稿するモブログ(moblog)などが存在するが、今後ユビキタス化が進展し、情報空間と現実空間がよりシームレスになっていくことで、自分に関する情報が自分の知らぬどこかで公開されてしまうというリスクも生じてくる。

アフィリエイトなどのブログと親和性の高いインターネット広告の技術も浸透し、ネット市場やマーケティングフィールドとしてのブログの価値も高まるであろうが、これらはすべてプライバシーとトレードオフの関係にある。個人情報リスクやセキュリティへの関心も高まっており、どう折り合いをつけていくかが重要となる。

このような今後の社会的な可能性について考えるにはあまりに時期尚早かもしれないが、今後ブログが一過性のブームを超えて社会的な定着にいたるかどうかは、私たちの社会がこのブログをどれだけ使いこなせるかにかかっているといつてよいだろう。

(濱野智史 慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程)

(\*1) bulkfeeds

<http://bulkfeeds.net/>

(\*2) はてなダイアリー

<http://d.hatena.ne.jp/>

## ブログを理解するキーワード

### トラックバック (TrackBack)

ブログ間の引用通知のこと。ブログ以前のウェブページ間におけるリンクは「一方通行」だったが、ブログ相互間で相互リンクの状態を作り、第三者もその議論の流れを「遡って追跡する(track back)」ことができるようになった。

### RSS (RDF Site Summary)

ブログの標準化された「メタデータ」のこと。一般的なものは、blogサイトの最新記事の見出し、作成日、作者、タイトル、概要などがXML形式で構造的に記述されている。ブログが更新されるたびに発行されており、これをネットワークを介して収集・連携することで二次利用が可能となる。

### ping更新通知サイト

ブログが更新を行うときに、その通知を自動的にこの更新通知用のサーバーに送ることで、ネット上に散らばるブログの更新状況を把握できる。アンテナと呼ばれるロボットがhtmlファイルが更新されたかどうかを探索するタイプもある。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)